

目指す学校像	明るい学校 学びのある学校 きれいな学校 楽しい学校
重点目標	1 さいたま市スマート・スクール・プロジェクトによる教育指導の一層の水準向上を図る。(学力向上) 2 安全・安心な環境を整備し、希望をはぐくむ教育を推進する。(安心・安全) 3 家庭・地域等との連携を図り、相互理解と信頼のもとに学校教育を推進する。(地域とともにある学校) 4 一人ひとりの教師力を高めるとともに、機動力のある組織をつくる。(教職員の資質向上)

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学校自己評価			年度評価		学校運営協議会による評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	(現状) ○令和6年度の全国学力・学習状況調査、さいたま市学習状況調査では市の平均に達していない。 ○学力向上のために、まず、「話を聞く」ことを重点指導し、「話を聞く」態度は身に付いてきている。 ○児童はタブレットの利用に慣れており、ICTを活用した学習に意欲的に取り組んでいる。 (課題) ○学力向上のために、「考える力」「表現する力」を育成したい。 ○考え・表現する学習を推進するために、対話的・協働的な学習活動を多く取り入れたい。 ○個別最適な学習を推進するために、ICTによるドリルや学習履歴、自己評価をより活用していきたい。 ○読んで理解する力の向上のために、読書活動を推進したい。	「考える力」「表現する力」の育成のため、対話的・協働的な学習活動を多く取り入れた授業の実現 ICTの活用や読書活動による個別最適な学習の実現	①発問の工夫により、児童の気付きや創意工夫を生かした考える活動を重視し、学習意欲や主体性、思考力を高めていく。 ②モデリングを効果的に活用した学習への見直し、3人グループ等による対話的・協働的な学習活動等により、表現力を高めていく。 ①ドリルパーク等を活用し、基礎学力の定着を図る。 ②ICTによる学習履歴の活用、目標を明確にしたルーブリック評価の活用、個人内評価の工夫等により、個別最適な学びを推進する。 ③読んで理解する力の向上のために、読書活動を推進する。	①学びの指標(考える時間 R6:3.13、試行錯誤 R6:2.90、友達の考え参照 R6:2.93)の向上、学校評価(教職員)よく考えて進んで学ぶ子の育成 R6:3.5→R7:3.5以上) ②学校評価(児童)自分の考えを表現している(新規:7割以上)、学校評価(教職員)主体的・協働的な学び(R6:3.31→R7:3.31以上)、個を生かす教育(R6:3.37→R7:3.37以上)	①学びの指標(考える時間 R7:3.43、試行錯誤 R7:3.21、友達の考え参照 R7:3.27)学校評価(教職員)よく考えて進んで学ぶ子の育成 R7:3.5)と全て目標を達成した。 ②学校評価(児童)自分の考えを表現している(R7:83.7%)学校評価(教職員)主体的・協働的な学び(R7:3.5)個を生かす教育(R7:3.6)と全て目標を達成した。	A	・対話的・協働的な学習活動を多く取り入れた授業が多くみられるようになり、モデリングによる学習への見直し、3人グループ等による学習活動などが効果的かつ日常的に行われるようになった。次年度も継続していく。 ・一人で、友達と、先生となどの学び方の選択、紙媒体で、タブレットで等の表現方法の選択なども進んだ。次年度も継続していく。 ・問いかけ、問い返しなど、児童とのやりとり・対話を磨き、児童の気付きを生かした思考過程を追究していく。	・基礎学力の向上のために「わかりません」と言える授業、子どもたち一人ひとりに合ったご指導を今後お願いしたい。 ・夏休みに補習が可能なら、検討できるとよいと思う。教員に負担をかけないで、中学生の学習支援ボランティアを活用すると、中学生も復習にもなってよいと思う。場所は徳力小を利用できると参加しやすいと思う。 ・読書は今後も機会を増やして、例えばマンガ等から読み始めても褒めて読書習慣を作っていければよいと思う。学校評価の質問項目は「よく読む」を「月〇冊以上」など具体的にした方がよいと思う。
2	(現状) ○「笑顔であいさつ」が浸透し、進んで気持ちのよいあいさつのできる児童が多い。 ○異学年の男女が混ざって一緒にドッジボールをして遊ぶ姿が見られる。 ○校庭で転んだり、泣いたりしている児童を心配する児童が多く、年上の児童が年下の児童のトラブルを仲裁する姿が見られる。 (課題) ○全ての学年において、全教職員が積極的ないじめの認知を行い、重大ないじめ事案に発展しないよう、プロアクティブな生徒指導、丁寧な初期対応、粘り強い継続指導が重要である。 ○誰一人取り残されない教育の実現のために、児童一人ひとりをよく理解し、保護者や関係機関との連携を密にした、児童に寄り添った指導・支援の工夫が必要である。	やさしく思いやりのある児童の育成 誰一人取り残されない教育の実現	①道徳や学級活動を中心に、全教育活動を通して、誰とも仲良くできる子、誰にでもやさしくできる子を育てる。 ②児童の人間関係を注視し、いじめの早期発見に努めるとともに、いじめに対する指導は、とことん話し合い、仲直りして仲良くできるところまで粘り強く指導し、3か月以上、確実に見届ける。	①学校評価のなかよし肯定的評価(児童 R6:94.5%→R7:94.5%以上、保護者 R6:96%→R7:96%以上)(教職員)やさしく思いやりのある児童の育成(R6:3.56→R7:3.56以上) ②学校評価(教職員)「児童生徒の心のサポート手引き いじめに係る対応」を活用し、迅速かつ適切に対応できたか。(R6:3.5→R7:3.5以上)	①学校評価のなかよし肯定的評価(児童 R7:91.5%、保護者 R7:93%)(教職員)やさしく思いやりのある児童の育成(R7:3.5)と目標を概ね達成できた。 ②学校評価(教職員)「児童生徒の心のサポート手引き いじめに係る対応」を活用し、迅速かつ適切に対応できたか。(R7:3.6)と目標を達成できた。	A	・人権週間での動画視聴等を通して、いじめ防止等について考える機会を作った。次年度も継続していく。 ・お昼の放送での児童によるお悩み相談室では、上級生によるアドバイスが温かく、次年度も継続していく。 ・いじめ対応は、組織的対応と記録を徹底していく。	・小さな学校なので、個に応じたきめ細かな児童理解をさせていただいている。 ・虐待などは自分から言えない子もいるので、大人が「あれ？」というアンテナをもち、聴き取りをして、関係機関につなぐといった対応が大切になる。今後も研修を重ねて、様々な機関等と連携して対応していきたい。
3	(現状) ○小・中・高校との連携、地域との連携によるあいさつ推進について、地域から好評をいただくとともに、さらなる継続にご期待をいただいている。 ○登下校の様子から、あいさつが年々よくなっているとの声をいただいている。 ○地域の防犯ボランティアの皆様、保護者の皆様のご協力のもと、たくさんの方々に児童の登下校の見守りのご協力をいただいている。 (課題) ○九九の習熟に課題のある児童が散見されるため、複数の大人により短時間に児童の九九の習熟を確認できるような、学習ボランティアによる協力体制が構築できるとよい。 ○地域人材を活用できる学習機会を工夫し、学習活動をより充実できるとよい。	「笑顔であいさつ」を児童自らが進んで行える明るい学校づくり 地域の特色や人材を活かした問題解決に取り組む学校づくり	①近隣中・高等学校と引き続き連携して取り組む体制を構築していく。保護者や地域と結びついた取組を継続していく。 ②児童の主体的な取組を推進し、各学級でも取組についての話し合いを充実させ、その集約機関として児童会が機能し、具体的な活動につながるような体制をつくる。	①あいさつに関する学校評価の肯定的評価(児童 R6:91.7%→R7:91.7%以上、保護者 R6:87.0%→R7:87.0%以上、教職員 R6:3.12→R7:3.12以上) ②学校評価(教職員)特別活動において、児童が主体的に活動するよう努めたか。(R6:3.37→R7:3.37)	①あいさつに関する学校評価の肯定的評価(児童 R7:89.5%、保護者 R7:82%、教職員 R7:2.9)と概ね達成することができたが、防犯ボランティアさんがあいさつをしても、あいさつを返す児童が3割程度とお声もあり、課題が残る。 ②学校評価(教職員)特別活動において、児童が主体的に活動するよう努めたか。(R7:3.5)と達成できた。	B	・防犯ボランティアさんへのあいさつについては、感謝の気持ちを育む手だてを工夫していく。 ・あいさつができる学校から情報を収集し、指導方法を工夫していく。 ・今年度、あいさつコインの貯金を行った。児童主体で改善点等を話し合い、取組を工夫していく。	・あいさつコイン等の取組は子どもも喜び、励みになるだろう。 ・学習面での地域の協力について、カリキュラムマネジメントデザインマップで教育課程全体を把握できれば、保護者・地域の方に協力いただける学習について、さらに検討できるのではないかと。 ・PTA主催イベントについて地域の方にもご案内してはどうか。 ・地域の防災倉庫について児童も学ぶ機会があるといい。 ・防犯ボランティアの見守りにより事故が起きていないと思う。安心メールでの爆破予告の情報提供は、その後の報告があるといい。
4	(現状) ○教職員は熱心に教育に取り組んでおり、児童への対応もよく行っている。 ○教職員はチームワークよく連携し、協力して業務にあたっている。 (課題) ○主体的・対話的で深い学び、個別最適な学びと協働的な学び、カリキュラム・マネジメントの推進、スクール・ダッシュボードの利活用等、教育改革をより一層進めていく。	教職員一人ひとりが向上心を持ち、主体的・協働的に研修や訓練、教育活動に取り組む学校づくり	①教職員が各自の目標や自分のなりたい教師像をもち、授業改善を意識して、日常的教育実践に取り組む。 ②校内研修として、教員一人2回以上のペア研究授業を行い、管理職や教員同士による授業参観シートを活用して、有効な指導方法について検証する。 ③教職員事故防止、生徒指導対応、個人情報管理、傷病者対応、アレルギー対応等について計画的かつ確実に研修を行い、教職員としての資質向上を図る。	①学校評価(教職員)研修課題を意識して日常的教育実践に取り組んだか。(R6:3.43→R7:3.43以上) ②教員一人2回以上のペア研究授業を行うことができたか。 ③学校評価(教職員)教職員事故防止の徹底 R6:3.62→R7:3.62以上、事件・災害・生徒指導に対し、全職員が意思統一を図り適切に対応できているか。(R6:3.75→R7:3.75)	①学校評価(教職員)研修課題を意識して日常的教育実践に取り組んだか。(R7:3.6)となり達成できた。 ②教員一人2回以上のペア研究授業を行った。 ③学校評価(教職員)教職員事故防止の徹底 R7:3.6、事件・災害・生徒指導に対し、全職員が意思統一を図り適切に対応できているか。(R7:3.6)となり、概ね達成できた。	A	・聞く態度、思考力・表現力の育成、振り返りに重点をおいた授業研究に深まりが見られた。次年度も授業研究を核とした校内研修を継続していく。 ・傷病者対応訓練、心肺蘇生法、ゲートキーパー研修、食物アレルギー対応研修、避難訓練、不審者対応訓練等、事件・災害・生徒指導に関する訓練・研修を確実に実施した。次年度も継続していく。 ・スクール・ダッシュボードの利活用について実践研究を進めていく。	・様々な取組は先生たちの負担感が増えてしまわないように体制づくりをしていければいいと思う。 ・訓練については保護者・地域の方にも参加を呼びかけてもよいかと思う。虐待等の対応についての研修もあるといいと思う。

学校運営協議会による評価
 実施日令和8年2月9日
 学校運営協議会からの意見・要望・評価等